

市民病院の医療提供体制は

問 周産期および小児救急医療への対応と医師確保の状況は。

答 現在、市民病院の産婦人科では、年間約200件の分娩を取り扱っている。小児救急医療については、昨年4月以降、医師の増員などもあり、現在では、小児二次救急の輪番医療機関として全当番日の約4割を担っており、今後

もさらなる充実を図っていく。

医師確保の状況は、直近3年間で産婦人科医は2名から4名体制へ、小児科医は4名から5名体制へと順次増員を図ってきた。産婦人科医については、公的病院の役割を果たすためにも、引き続き医師の確保に努めていく。小児科医については、平成30年度に2名の増員を予定しており、一層の小児診療体制の充実に取り組みでいく。

学校規模・学校配置の適正化は

問 再編対象学区の計画の進捗状況と課題は。

答 東村・今津学区と服部・駅家東学区では、平成32年4月の開校に向け、早期に開校準備委員会を設置できるよう保護者や地域と継続的に意見交換を重ね、再編への理解が進んでいると捉えている。再編後の学校の環境変化やまちづくりなどへの懸念があるが、具体的対応策を示すなど不安の解消に努めている。

山野・広瀬と加茂学区では、とりわけ広瀬学区において、大きな集団になじめないなどの理由で、

多くの児童生徒が校区外から通っている状況等があり、そうした教育的配慮が必要な子どもたちの教育環境の在り方について、全市民的視野に立ち、検討している。

(仮称)千年小中一貫教育校の内浦・内海・千年・能登原・常石学区では、地域や保護者と意見交換を行っている。その中で、同様に再編後の学校の環境変化に対する心配や再編後のまちづくりに対する懸念が聞かれるが、子どもたちの教育環境と地域の活性化はそれぞれ別の課題として分けて議論することとし、一部の地域ではまちづくりについての話し合いも始めたところである。

福山ネウボラの現状と新たな取り組みは

問 福山ネウボラの相談状況と平成30年度の取り組みは。

答 昨年6月に相談窓口「あのね」を開設以降、1月末までの相談件数は5440件となっており福山ネウボラの取り組みが、徐々に子育て家庭に浸透し、信頼関係を築いているものと受け止めている。課題は、妊娠中から相談窓口「あのね」に継続して相談に来てもらうための仕組みづくりが必要



あのね神辺保育所での相談

と考える。平成30年度の取り組みの一つとして、その仕組みづくりと、

公明党



塚本 裕三

今後の財政運営は

問 財政運営の基本方針は。

国民健康保険税の算定は

問 保険税算定の経緯は。

答 県から示された額が平成29

答 平成30年度は将来の発展に向けた投資に予算を重点配分した。同時に、経常収支比率や実質公債費比率の改善を図るとともに、市債の総額管理を行い、将来に大きな負担を先送りしないよう配慮した。こうした積極的な投資と財政の健全性を両立させるために、大胆な事務事業の見直しや計画的な基金活用にも取り組んだ。

年度に比べ6368円の増額となることから、財政調整基金を活用して、激変緩和期間の6年間で段階的に調整することとし、上昇幅を2060円に抑制した。